

2008年9月26日

## 中山成彬国土交通大臣の日教組への誹謗・中傷発言に対する書記長談話

日本教職員組合

書記長 岡本 泰良

中山成彬国土交通大臣は、報道各社のインタビューで、「日教組の子どもなんて成績が悪くても先生になる。だから大分県の学力は低い。」「日教組の強いところは学力が低い。」を旨とする発言をした。数時間後には、誤解を招く発言であったとして撤回しているが、大分県のみならず全国の教職員および子どもたちの日々の教育活動を冒瀆し、人権を蹂躪する発言であり、断じて許されるものではない。

「日教組の強いところは学力が低い」発言は、何の根拠も持たないことである。そのことを証明するために全国学力テストを提唱したとするのは、文科大臣（当時）としての権力の乱用であることを自ら露呈したものである。文科省が公表している調査結果からも日教組の組織率が学力と相関関係がないことは統計的にも明らかである。

いま大分県においては、教育委員会幹部が引き起こした教員採用汚職事件に対し、あらゆる教育関係者が公教育への信頼回復に努めている。そのことに思いを至らせることなく発した大臣の発言は、子ども・保護者・地域・教職員等、教育関係者すべての思い・努力を踏みにじるものである。

中山大臣の発言は、日教組への偏見・差別による誹謗・中傷にとどまらず、国民生活に大きく関わる国土交通相としての認識が問われなければならない。

日教組は、中山大臣に対し、厳重に抗議するとともに、正式な謝罪および発言に対する責任として辞任を強く求める。